

出向の元凶動労革マル粉碎

「日の丸」掲げた革マル松崎を打倒せよ！



87. 8. 5
No. 2620

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二二七二〇七

強制出向反対のスト権確立へ

スト権確立が情勢を決定する

今号は、前回に引き続き、強制出向攻撃の違法性を明らかにし、その背後にある首切り出向攻撃の先兵Ⅱ革マル松崎の本質を露きだすことにしたい。

当局自身違法行為を承知して強行

強制出向が違法であることは、当局も実は百も承知しているのである。何とか、この違法行為をすり抜けて、強行するために、内部では次のような意志統一がおこなわれているのだ。（前出の東日本「出向会議」議事録より）

「出向制度については、判例・学説等が統一されたものになっていない現状を考慮し、通常の人事異動とはいっても、人事権の濫用にならないようにしなければならぬ。従って具体的に発令する段階においては、個々の社員に対する〇〇は必要である。」
「人事の妥当性が問題となることが予想されるが、いろんな者が入っていることが望ましい状態である。」

これは、当局自身が、強制出向の不当・不法性を自ら暴露したものであるといえる。「〇〇」と伏せ字になっている所には、本来、「同意」という言葉が入らなければならないのである。当局はここに、「説得」なり、「強要」なり、「恫喝」なりという言葉をもつてきて、無理矢理にでも「同意」したかたちをつくれ、と言いたいのである。しかし、それが公表されてしまえば、明らかに違法行為になるので、伏せ字にしてあるのである。

しかし、現実には、それすらもやらずに、ある日突然事前通知をおこなっているのが現実である。これでは、当局自身、内部では語っているように明らかに「人事権の濫用」である。しかも、役員活動家ばかりだと、人選の妥当性が問題となるので、いろんな者が入っていることが望ましい、と言いつつは、到底許すことのできない暴言である。

しかし、いずれにしても明らかなのは、強制出向のゴリ押しについては、当局自身、全く自身をもっていないということである。違法行為であ

るがゆえに、内心はビクビクしているのだ。真向から反対して起ちあがる者がいないから、こんなでたらめがまかりとおっているだけなのである。

首切り出向攻撃の先兵Ⅱ鉄道労連・革マル

なぜ、JR各社のなかでも、東日本だけが、かくもでたらめな強制出向攻撃を強行しているのか。理由は明らかである。革マル松崎が手先となりけしかけているからだ。五月二六日に開催された団交の席上、東鉄労と当局の間では、次のような論議がおこなわれているのだ。

東鉄労 JR各社では、会社の対面もあるの
で真面目な鉄道労連から（出向に）出
してほしいという声がある。数を揃え
るために真面目な社員を泣かせること
のないようにされたい。JRの足を引
つばる者をどうするのか。
当局 他者では会社の対面ということが、
東日本としては、そういうことを考え
ていない。会社にとって望ましい社員
の出向は避けていきたい。

経営に協力しない者は、人件費解消が目的となる。

「日の丸を掲げる労働運動」を宣言した松崎は、「四・一」にできなかったレッドパージ攻撃を、出向をとおして新会社のなかで強行しろ、とねじこんでいるのだ。当局とともに、動労革マルこそが、出向攻撃の元凶である。

しかし、革マル松崎だけを唯一の頼みとするような出向攻撃には、どだい無理があるのである。早晚、出向攻撃の大きな矛盾が爆発することは避けられない。スト権投票の成功をかちとり、首切出向攻撃粉碎の総反撃にたとう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！